

平成30年度 宮崎県立日南振徳高等学校 学校評価表 (H31.3月)

教育目標	学校経営ビジョン	目指す生徒像	平成30年度 重点目標
豊かな人間性を育み、地域や社会の発展を担う人材を育成する。	『総合制専門高校』の特色を生かしながら、生徒の夢の実現に向けて、生徒と職員が一体となって取り組む学校づくりを推進する。	1 自ら学び向上する生徒 2 心清らかで創造性の豊かな生徒 3 困難を乗り越える生徒	1 『人間力の育成』 2 『個に応じた指導の徹底』 3 『地域連携と安全確保』

【学校全体】

	評価項目	平成30年度目標	平成30年度の取組と成果	内部評価	外部評価	主な意見
1	人間力の育成	(1) 組織的な教育体制の整備と強化 →生徒情報の共有化と理解促進 →生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の習得 (自ら考え、正しく判断し、行動する力の育成)	【取組】○4月の職員研修で全生徒情報を共有し、対応策を確認した。 ○生徒指導部・相談支援部との連絡会議を毎週実施した。 ○学年集会を随時実施した。○毎朝立腰黙想を実施した。 ○生徒の企画・運営による学校行事を実施した。 【成果】1学期はやや落ち着きのない生徒も見られたが、全体的には落ち着いていた。進路変更者が多く、中学校とのさらなる連携強化が必要である。(進路変更 1年:7名 2年:4名 3年:1名)	B	B	振徳生の挨拶や登下校のマナーなど日々良くなってきている。 進路変更については、中学校との連携や入学後の取組など、なお一層の指導を望みたい。 SNSの指導状況に関する質問を受けた。
		(2) 人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実 →人間関係を構築する力、正しい判断力と行動力、課題解決力、能力に応じた確かな理解力の育成 →通級指導体制の構築と導入	【取組】○「いのちを大切に教育週間」の取組として、放送部が命の作文を朗読し、全校生徒が放送を聞いて感想文を作成した。 ○各学年毎のテーマによる人権学習の取組として、1年生が仲間作り、2年生が人権尊重、3年生が就職差別に取り組んだ。 ○来年度から実施する通級指導体制を整備した。 【成果】放送による作文朗読の手法はたいへん効果的であった。 通級指導は今年度は1年生に対して試行的実施した。来年度の2年生から本格スタートである。	A		
2	個に応じた指導の徹底	(1) 授業の工夫・改善 →個に目を向けた教育によるわかる授業の実施	【取組】○アクセシブルデザインを取り入れた授業に取り組んだ。 ○11月に授業力向上研修を実施した。 【成果】職員がわかる授業を実施しようとする意識が向上した。	B	B	「未来の教室」や郷土学など振徳高校の特色のある学習は、話題になっている。キャリア教育が高校生にも浸透して、地元を大事にする人間を育てて欲しい。
		(2) 総合制専門高校の特色を生かした教育の展開 →多様化する産業社会に対応できる人材の育成	【取組】○経産省「未来の教室」実証事業を活用し、電気科生徒が温室用センサーを製作、経情科生徒がプログラミング、地農科生徒がそのシステムで栽培を行う学科連携学習を実施した。 【成果】外部指導者を招いての実践学習により、生徒の意欲的な取組が見られた。この事業をモデルに学校全体に広げていきたい。	A		
		(3) キャリア教育の推進と進路指導の充実 →キャリア形成能力の獲得と100%進路実現	【取組】○宮崎と産業(1年)、郷土学習(2年)、課題研究(3年)を実施した。 ○計画的・体系的な進路学習を実施した。 【成果】H30進路状況は、就職134 進学63 (未定3名)であった。	B		
3	地域連携と安全確保	(1) 地域連携による教育の展開 →地域社会で活躍できる人材の育成	【取組】○地域や関係機関と連携した課題研究・就業体験を実施した。 ○総合選択科目「郷土学習」を実施した。 【成果】地域の魅力を再発見し、郷土に対する興味・関心が高まり、将来地域貢献したいという意欲の向上に繋げることができた。	A	B	振徳通信、HP記事の多さなど、今年は、学校の様子がよく分かった。 防災については、もう少し、近隣の皆さんと連携した活動を検討して欲しい。 通学路(板敷街道)の拡幅工事の準備が始まり、2箇所長い杭が歩道脇にある。生徒に注意を喚起して欲しい。また、特に4月になると勝手な分からない新入生(小中生と振徳生)の交通指導を十分して欲しい。
		(2) 広報活動の推進 →本校教育活動のPRと地域社会への理解促進	【取組】○中学生の理解が深まる学校紹介に取り組んだ。 ○報道機関や媒体の積極的活用を行った。 ○学校便り「振徳通信」の発行とHPによる情報発信を行った。 【成果】中学生への学校紹介や地域への学校PR、報道機関の活用については現在の効果を検証し、再考する必要がある。 HPは全国農大・農業高校HPコンテストに入賞した。	B		
		(3) リスクマネジメントの強化 →安全安心な学校づくりの推進	【取組】○防災講話(7月)と地域合同避難訓練(12月)を実施した。 ○熱中症対策のための調査 → 空調設備の設置要求を実施した。 【成果】空調設備が設置され、来年度より稼働することとなった。 施設設備の定期点検(老朽化)と更新計画作成が急務である。	C		

【各組取組】

評価項目		平成30年度目標	平成30年度の取組と成果	内部評価	外部評価	主な意見
生徒募集	入学者の確保	(1) 地域産業の発展に意欲ある入学者の確保 → 学校説明会への参加やオープンキャンパスの実施	【取組】 ○中学校における高校説明会へ積極的に参加した。 ○中3を対象（8月）、中2を対象（12月）のオープンスクール（体験入学）を実施した。 【成果】 管内全ての中学校と管外の学校説明会に参加し、本校の魅力を発信できた。	B	B	HPは頻りに更新され、新聞やTVでの報道も多く、良く学校をアピールしている。 昨年度に比べ受検者が約40名近く増えたのは評価するが、なお定員割れであり「A」評価はできない。 次年度は、是非定員を満たしてもらいたい。
	学校PR	(2) 積極的な情報発信と教育内容のPR → HPやマスコミを活用した積極的な学校情報発信	【取組】 ○広報誌「振徳通信」を中学校や地域に配付した。 ○HPやマスコミをとおした、積極的な情報発信を行った。 【成果】 広報誌を日南・串間管内・管外（宮崎市内数校）の中学校全ての3年生・職員、又近隣自治会へ配付し、好評を得た。 頻りにHPを更新し、常に最新情報の発信に努めた結果、1日当たり250～300件の閲覧あり。（閲覧数県内で1、2位）又、郷土学の取組をとおして、地域連携の学びを多く実施した為マスコミの関心を惹き、取材・報道も多かった。PR活動が実を結び受検者数UPに繋がったものと判断する。			
2	学校教育	(1) 特色ある教育課程の編成 → 新学習指導要領を踏まえた体系的な教育課程の検討	【取組】 ○全職員による授業力向上の取組を行った。 ○小中学校の公開授業・研究発表会へ積極的に参加した。 ○「通級による指導」体制の準備を完了した。 【成果】 全職員で公開授業研究を実施し、授業のユニバーサル化が実践された。又小中学校での授業参観をとおして、授業力向上・地域連携意識が向上した。来年度開始する「通級」指導に向けて、教育課程の編成、指導対象生徒・保護者の同意など完了できた。	B	B	支援の必要な生徒にも具体的に対応していこうとする学校の取組に期待したい。 総合制専門高校は、どんな学校なのかまだ十分理解されていない。ただ、今年の取組を知ると地域の人達にも分かるのではないかと。 中学までの学力がついていない生徒へ、学校全体で指導して欲しい。勉強させるから、自分で勉強するように仕向けるよう、先生方も考えを変えたらどうか。
		(2) 総合制専門高校の特色ある教育の展開 → 地域に目を向けた「総合選択科目」の実施・展開 → 学科の枠を超えた連携による教育の実施・展開	【取組】 ○郷土学習で「郷土を知る・課題を考える」に取り組んだ。 ○経済産業省「未来の教室」実証事業を活用し、学科連携学習に取り組んだ。 【成果】 生徒の郷土愛や誇りを持つ意識が高まった。2年次に「郷土の課題を知る・考える」から、3年次の「課題を解決する」へ、学習の流れができた。 来年度は、「未来の教室」を加えて、本校の特色を生かした郷土に貢献する課題研究グループが4つ誕生し、開校以来目標としてきた「学科連携によって地域に貢献する教育」を具体的に実践する目途があった。			
	学力向上	(3) 基本的学力と専門的知識・技術の習得 → 普通教科の基本的知識の習得と各学科の専門性向上	【取組】 ○漢字力の向上を目的に文字力マッチを全校で取り組んだ。 ○専門部各コンテストへの取組、資格取得指導を行う。 【成果】 系統的・組織的な基礎学力定着、向上の取組は不十分である。来年度の課題となる。 英検1級合格（経）、IT・簿記選手権九州・沖縄大会団体優勝（商・経）、マイコンカー全国大会出場（電）、全国農業鑑定園芸分野優秀賞（地農）など成果を挙げた。	C		
3	進路実現	(1) 進路指導体制の確立 → 進路指導計画に基づく早期対応と生徒への意識付け	【取組】 ○高校3年間を見とおした、進路学習を実施した。 ○進路指導に係わる資料の再編成を行った。 ○進路情報のデジタル化を推進し、利用アクセス向上を図った。 【成果】 卒業生の話を聞く会（5月）、県南企業説明会（6月）、インターンシップ（各科）、進学説明会（6、3月）、企業説明会（11月）等々を実施し、ほぼ100%の進路決定であった。 特に、生徒・保護者を対象に実施した企業説明会（ブース形式）や教師・保護者による企業見学会は、地元企業への理解を深める良い機会になった。	B	B	ここ数年、地元就職者が増加している。今後も指導をして欲しい。 インターンシップは、中学校も実施しており、中高での違いがよくわからない。もう少し工夫が必要ではないか。
		(2) 生徒の希望に応じた100%進路実現 → 確実な情報提供と生徒の理解促進による進路決定				

評価基準（達成度） A=ほぼ達成した（90～100%） B=8割程度の達成度（70～89%） C=6割程度の達成度（50～69%） D=5割以下しか達成できなかった（50%以下）